

I 建学の精神
大学の基本理念
使命・目的
大学の個性・特色等

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 八戸学院大学の建学の精神と教育理念

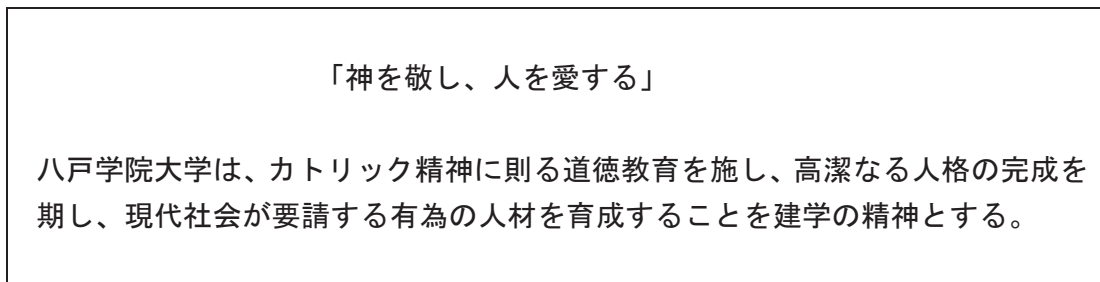


図1 八戸学院大学「建学の精神」

八戸学院大学の設置母体である学校法人光星学院（以下、法人）は、昭和34(1959)年3月、創設者洗礼名ヨゼフ中村由太郎（初代理事長）によって創設された。中村由太郎は自らの苦学の体験とキリスト教信者としての愛と奉仕の精神を基に、「若人に教育を与え、人格の陶冶を図り、地域社会の発展に寄与する人材を育成せん」として、「神を敬し、人を愛する」を建学の精神に掲げた。

中村由太郎の教育に対する並々ならぬ思いは、昭和31(1956)年4月、光星学院高等学校（現校名：八戸学院光星高等学校）設立に当たり起案した設立趣意書に「進学の希望が満たされない多くの少年達を放置している事態は、地方教育界の未曾有の大事である。純真澁刺たる多くの若人達の栄えある前途にこそ偉材が潜みいることを思い、進学の道を平にして彼等に光明を与え、秘めたる天分を見出し、その天分を遺憾なく発揮させ、真に人類社会の進歩発展に寄与せしめんとするものである」と込められている。（資料：光星学院高等学校三十五周年記念誌）

また中村由太郎は昭和46(1971)年7月、法人の理想とする「立体的総合学園」構想を打ち出した。「幼稚園—中学校—高等学校—短期大学—4年制大学—大学院と正規の学校から、社会人を対象とする成人教育を含む生涯教育の場を完成し、この全学を一つの指導原理によって貫き、真に時代が要請する有用人材を育成しよう」と法人の将来の展望を明らかにするとともに、「前途尚遼遠を思わせるものがあるが、急がずあせらず、着実に実行をして完成を期する」と強い決意を表明した。（資料：昭和46(1971)年7月24日付「光星新聞」第39号）

このような建学の精神、理念を踏まえ、法人の理想実現に向けて、昭和56(1981)年4月、八戸大学（現校名：八戸学院大学）が開学した。建学の精神は「カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成する」ことであり、「神を敬し、人を愛する」という言葉に端的に表現されている。また、教育理念として「教育基本法及び学校教育法に基づき、カトリック精神にのっとり、広く豊かな教養をもち、正しい道徳観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をする」ことを掲げ、開学以来今日に至るまで受け継がれている。

そして、近年急激な少子化が進行する中、本学の一層の充実・発展を期するためには、改めて建学の精神、理念に立ち返り、理想実現に向けて法人が一体となって地域と連携を強化する必要があると判断し、法人内すべての学校名に「八戸学院」を冠して統一性を図

るとともにロゴマークを作成した。それに伴い、平成 25(2013)年 4 月、校名を「八戸大学」から「八戸学院大学」へと変更した。

八戸学院大学のロゴマークは図 2 のとおりである。



図 2 八戸学院大学ロゴマーク

ロゴマークは「八戸を愛する心」と「無限の可能性」の精神を込め、郷土の「南部菱刺（ひしざし）」をモチーフに「連続性」をデザインしたものである。さらに、八戸の「8」を表現するだけでなく、「八戸学院グループ」が時代を超えて連綿と受け継いでいく「未来への展望」をシンボライズしたものである。なお、シンボルカラーを日本固有の伝統色である臙脂色（えんじいろ）とし、内に秘めた情熱を持ちながら、冷静、沈着な思考力と行動力に富む人材の育成をイメージしている。

2. 八戸学院大学の使命・目的

本学は「建学の精神」および「教育理念」に基づき、「八戸学院大学学則（以下、学則）」第 1 条第 1 項に、「カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成すること」を目的として定めている。

平成 27(2015)年 3 月末に、系列の短期大学に設置していた看護学科について、大学に改組すべく文部科学省に申請し、同年 8 月末に設置認可を受けた。さらに、従前の人間健康学部看護学科を増設したことから学部名称を見直し、健康医療学部に変更した。このことにより、平成 28(2016)年 4 月からは、ビジネス学部ビジネス学科、健康医療学部人間健康学科、同学部看護学科の 2 学部 3 学科体制となり、学則第 1 条第 2 項から第 4 項の各学部学科の教育目的を次のとおり定めた。

・ビジネス学部ビジネス学科（第 2 項）

経営・会計・情報・商業等についての学びを踏まえ、地域課題を分析し解決できる能力を備えたビジネスマインド、チャレンジシップを有し、地域発展に資する人材を育成する。

・健康医療学部人間健康学科（第 3 項）

こころとからだの健康についての学びを踏まえ、幅広い分野の研究・指導・実践ができ、現代社会における健康に関するニーズに対応できる人材を育成する。

・健康医療学部看護学科（第 4 項）

豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する看護の知識や技術に対応できる能力や地域

の保健医療活動、健康増進に看護の実践者として貢献できる資質の高い人材の育成を目的とする。

3. 八戸学院大学の個性・特色

八戸学院大学は、昭和 56(1981)年 4 月、11 教育機関を設置する学校法人光星学院を母体に、北東北地域唯一の「商学部商学科（入学定員 100 人→現行 80 人）」の単科大学として開学した。

以来、有為な人材の育成を通して地域の経済・社会・文化の発展に寄与することに努めるとともに、一貫して地域に立脚した大学として教育と研究を行ってきた。しかし、国際化、情報化が急速に進んでいる現代のビジネス社会において、即戦力となる人材を育成するためには、社会科学である商学に経営学の実践的内容を積極的に取り込み、融合させた教育組織を新たに構築する必要があることから、平成 16(2004)年 4 月に商学部を「ビジネス学部」へと名称変更した。

また、近年の急速な高齢化、少子化によって、保健医療・福祉に対する国民や地域社会のニーズは増大かつ多様化してきており、誰もが健康で生きがいをもって家庭や地域で安心して豊かな生活を送ることができる社会の構築が喫緊の課題になっている。青森県では、生活習慣病等による死亡率の高さ、医師不足、高齢化率の急上昇など諸課題も多く、個々人のニーズに応じたウェル・ビーイング（well-being）に対する支援の重要性が高まってきている。こうした時代と地域の要求に応えるべく、平成 17(2005)年 4 月に「人間健康学部人間健康学科（入学定員 100 人→現行 80 人）」を増設した。さらに、健康・医療・福祉等への注目の高まりを受けて、平成 28(2016)年 4 月に看護学科（入学定員 80 人）」を増設するとともに、学部名称を人間健康学部から健康医療学部に変更した。

このように、本学は時代の要請と地域の要求に応えるべく学部の名称変更や増設の改革を行ってきた。さらに、教育の質を高めるために様々な教育改革にも取り組み、特色ある教育活動を展開している。

（1）広く豊かな教養やキャリアアップの意識を身に付けた人格の完成

広く豊かな教養を身に付けるため、全学共通のリベラルアーツを基礎学力の確立と人間性の涵養を目的として、「導入教育」のほか、「外国語を学ぶ領域」、「人としての在り方を学ぶ領域」、「社会の在り方を学ぶ領域」、「自然と科学を学ぶ領域」という 5 つの領域に編成している。また、学生のキャリア形成を強力に支援することを目的として、「キャリアデザイン I ～ VIII（各 1 単位で I ～ VI は必修）」を導入している。

（2）現代社会の多様なニーズに対応できる専門性と実践力を身に付けた人材の育成

現代社会が求めるニーズを的確にとらえ、それぞれの専門的分野において自己の社会的役割を認識し、地域社会の発展に寄与することができる人材を育成するため、職業イメージや資格・免許の取得を念頭においたコース・プログラム制を導入している。

ビジネス学部ビジネス学科では、地域発展に資する人材の育成を目指し、「経営コース」と「公共コース」をおき、健康医療学部人間健康学科では、現代社会の健康ニーズに対応できる人材の育成を目指して「スポーツ科学コース」と「健康科学コース」をおいている。

そして、学生の主体的な学修を促し、専門知識と技術が体系的に修得できるように、順次性を明確にした科目配置をしている。健康医療学部看護学科では、看護師・保健師の国家試験受験資格の取得に必要な科目を配置している。

また、専門知識・技術を修得し、学内外の活動に積極的に参加することを目的として、「八戸学院マイスター」という認定制度を設けている。ビジネス学科ではビジネスに関する専門分野（経営・金融・会計・情報・法律・経済など）、人間健康学科では健康に関する専門分野（医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養など）の知識・技術を優れた成績で修得し、かつ、人物が優れている学生を「ビジネスマイスター」、「健康マイスター」として認定している。

（３）地域に根ざしたフィールド活動による社会貢献

本学の教育理念に基づき、地方文化や地域経済に密着した教育を施すとともに、地域をキャンパスとした教育活動を行っている。

実践的な教育としてのフィールド活動は地域資源をキャンパスとして行っている。三陸復興国立公園内の種差海岸におけるフィールドワーク活動は学生の感性とアイデアを活かすキャンパスとなっている。この活動を通して、学生に地域活性化のビジョンと方策について考える機会を提供している。

また、地域に根ざした教育活動や社会貢献として、地域住民を対象とした公開講座と健康調査を行っている。地域住民に対して健康に関する学習機会を提供し、健康意識の向上を目的として行っている公開講座は、学生の研究発表も行っており、学生にとって地域への発信のよい機会となっている。さらに、学生が中心となって行っている地域住民に対する健康調査は、地域住民の健康増進、特に健康寿命の延伸に寄与することが期待されている。

このように地域社会と連携したフィールド活動は、学生の実践力を高め、地域が抱える問題を解決する能力を培うとともに、本学の教育理念である地域社会の経済・文化の発展に寄与できる人材の輩出につながっている。